

ハクモクレン

学名： *Magunolia heptapeta* Dandy 科名：モクレン科



ハクモクレンは中国原産の落葉高木で、高さは5〜15m程になります。香りが良く、美しい花が咲くため日本でも観賞用として栽培されており、街路樹のほか寺院や公園に多く植えられています。花期は3〜4月頃で、直径15cm程にもなる大きな白い花が天を見上げるように閉じた形で咲き、甘い香りを放って春を告げます。花は日に当たると開き、夕方に閉じます。花弁は6枚ですが、3枚の萼片が花弁とそっくりな見た目をしているので9枚の花弁があるように見えます。

生薬部位はつぼみで、全体が毛で覆われているのが特徴です。このつぼみを、軸を除いて乾燥させたものが辛夷（シンイ）と呼ばれる生薬になります。成分としては精油成分であるシトラール、αーピネン、オイゲノールのほか、リグナン類、アルカロイドのコクラウリンなどが含まれており歯痛や頭痛、鼻炎、蓄膿症による鼻詰まりを改善します。

風邪（ふうじゃ）を除き、鼻閉を治す薬能があるとされ、主に漢方に使われます。漢方では葛根湯加川芎辛夷、辛夷清肺湯などの鼻づまりを改善する処方に配剤されています。

生薬名	辛夷（シンイ）	局方生薬
薬用部位	つぼみ	
薬効	鼻粘膜の収斂、抗菌・抗ウイルス、降圧、抗アレルギー作用	
用途	鼻づまりや蓄膿症に用いられる。 葛根湯加川芎辛夷（カクコントウカセンキュウシンイ）、 辛夷清肺湯（シンイセイハイトウ）など	



クソニンジン

学名： *Artemisia annua* L. 科名：キク科



この植物はアジア、ヨーロッパ、北米などに分布し、草丈が1〜2m程の1年草です。クソニンジンという和名は全草に特異な匂いがあり、葉の形がニンジンに似ていることから名付けられました。

生薬名は黄花蒿（オウカコウ）といい、中国では昔から慢性熱病の解熱、寄生性皮膚病・いんきん・たむしに対する外用薬として用いられていました。

クソニジンは少なくとも7種類の「セスキテルペン（天然有機化合物）」を含有しています。その中の1つである「アルテミシニン」に強い抗マラリア作用があることが分かり、発見者の屠呦呦（ト・ユウユウ）博士は2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞しています。「アルテミシニン」は少ない副作用で高い効果が得られるため、マラリアによる死者数を大幅に減少させました。アルテミシニン誘導体による新薬も開発されていますが、近年はアルテミシニン耐性熱帯熱マラリア原虫が出現し、対策に追われています。マラリアは、マラリア原虫をもつ蚊に刺されると1〜4週間後に発熱などが現れる三大感染症の1つであるので、お気をつけください。

生薬名	黄花蒿（オウカコウ）
薬用部位	地上部
薬効	抗マラリア、解熱、止血、殺虫作用
用途	抗マラリア薬の原料、解熱、止血薬に用いられる。